

4 令和2年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・定時制総合学科、単位制の利点を活かし、基礎学力の定着や学習意欲の向上を図る教育課程を提供する。 ・多様な生徒の学習ニーズに応える柔軟な学習支援の充実を図る。	①生徒の実情に合わせた履修指導、単位修得指導の推進をより一層図る。 ②生徒ができるようになったことを実感し、自ら学ぶことができるよう支援する。	①生徒の実情に合わせたきめ細かな履修指導を行い、年度途中で履修を諦める生徒の減少を図る。 ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業改善に取り組む。	①未履修となった生徒が減少したか。 ②学習支援Gが中心となった研究授業週間を実施できたか。生徒による授業評価の「授業の在り方」について肯定意見が8割を超えたか。	①学年末成績会議において、成績不振者の人数が、昨年と比較し、3名減少した。（評定「1」のあった生徒は3名→0名） ②10月28日現在、校内研究授業を1回実施した。（地歴） ②第2回生徒による授業評価の「授業の在り方」についての肯定意見が8割を超えた。	①個々の生徒の興味や関心に応じたきめ細やかな履修指導を引き続き行う。 ②校内研究授業で共有した成果を、組織的な授業改善の材料とし取り入れる。 ②引き続き生徒の実情に沿った授業づくりを行う。 ②本校生徒の状況に応じたG-suiteの活用方法についても継続的に研究していく。	・成績不振者の減少は教職員の取組の成果と評価する。個々の生徒の実情に合わせた指導の大事さを改めて認識させられる。 ・対象生徒の実情に合わせて大変な努力が必要とは思いますが、今後も引き続き指導してほしい。 ・年度途中で履修をあきらめる生徒が減少するよう、引き続き指導を徹底してほしい。	①成績不振者を減少させることができた。 ②校内授業研究が1回にとどまっている。 ②生徒による授業評価では、概ね良好な評価を得ている。	①今後もきめ細やかに履修指導を行うとともに、個々の生徒に合わせた指導を行い、年度途中で履修をあきらめる生徒数を減少させる。 ②校内授業研究を充実させ、特にICTを効果的に用いた授業研究を行い、総合的に組織的な授業改善をさらに進めていく。 ②今後も生徒が主体的に取り組める授業づくりを推進する。
2	生徒指導・支援	・生徒にとって安心、安全な教育環境の確保に努め、生徒の自己実現に向けたきめ細やかな支援の充実を図る。	・生徒一人ひとりについて、あらゆる角度から理解を深め、適切な指導、支援を行う。また、個々の生徒が社会性を身に付け、自己実現のため積極的に取り組めるよう、充実した教育環境を整える。	・生徒の情報共有を徹底し、課題解決に向け即応性をもって取り組む。 ・問題行動等の未然防止に努める。 ・保護者との連携を深め、学習を中心とした基本的生活習慣の確立に努める。	・生徒理解につなげるため保護者との連携に努め、生徒が積極的に学校生活を送ることができるか。 ・問題行動等の未然防止に努め、発生件数ゼロを維持できたか。 ・高校生としてふさわしい社会性が身に付いているか。	・全職員がすべての生徒の情報を共有し、適切な指導、支援取り組んだことにより、生徒が落ち着いた雰囲気の中で充実した学校生活を送ることができた。 ・課題のある生徒については、保護者と連絡を密にとり、生徒がより良い方向に向かうよう働きかけた結果、一定の成果を上げることができた。 ・生徒の言動を注視し、問題行動の未然防止に努めた。特別指導は、3月1日現在1件2名である。 ・いじめ等もなく、高校生としてふさわしい規範意識を持ち意欲的に生活していることが実感できた。	・個々の生徒の特性を理解し、より良い教育環境の整備に努める。 ・すべての生徒がストレスなく意欲的に学業に取り組めるよう、情報収集につとめ、具体的方策を検討する。	・今後ともきめ細やかな対応をお願いする。 ・明るい学校、何でも言い合える学校を目指してほしい。 ・充実した学校生活を送らせてあげられるよう引き続き指導してもらい、生きることへのモチベーションアップを図ってほしい。	・生徒情報を全職員で共有し、個々の生徒に応じた指導・支援を実施できた。 ・生徒の言動を注視した結果、特別指導は1件2名であった。 ・課題のある生徒の対応については、保護者との緊密な連携が生徒へのきめ細かな指導につながった。	・今後も生徒情報共有に努め、個々の生徒の特性を理解し、適切な指導・支援を実施していくとともに、教育環境の整備に努める。 ・引き続き、問題行動の未然防止に全職員で取り組み、問題行動発生件数ゼロを目指していく。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を行いながら、生徒の悩みや課題に引き続き対応していく。
3	進路指導・支援	・生徒の実情に沿ったキャリア教育を推進し、社会生活実践力の育	・生徒一人ひとりの実情に合わせた進路指導を行い、希望進路の実現を図る。	・面談等を通じて生徒一人一人の実情を把握し、生徒のニーズに合わせた進	・進路決定率80%を維持できたか。 ・進路だよりを月2回以上発行	・3月3日現在、6名が学校斡旋による就職活動で内定を得た。なお、2名が就職活動を	・進路未定者に対する支援が課題。 ・特に発達特性のある生徒に対する支援の中で、本人	・様々に厳しい状況の中、70%の進路決定の結果は評価に値する。 ・来年度は100%になるような対策が必要。	・進路決定率は75%であるが、生徒の状況はしっかりと把握できており、引き続き、きめ細かな進路指導を行っていく。 ・生徒の状況を把握し、状況に	・学習支援や生徒支援と連携しながら、進路未決定者が減少できるよう取り組んでいく。 ・生徒の状況を把握し、外部機関との連携を強化し、個々に応

	視 点	4 年間の目標 (令和2年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		成を図る。		路指導を行う。 ・進路だよりを発行し、生徒、保護者及び担任に様々な進路情報を共有する。 ・特別な支援が必要な生徒の就労支援を強化する。 ・ハローワーク、サポートステーション及びNPO団体との協働を図る。	できたか。 ・福祉就労の手続きや就労支援機関との連携が適切に行えたか。 ・ハローワーク、サポートステーション及びNPO団体と協働できたか。	継続している。 ・進路だよりを40回発行した。3月3日時点で、約70%の生徒が進路決定した。 ・当初進路未定の2名が学校斡旋による就職活動を年明けから始めることができた。	が特性を受容できていないケースにおいて、適切な対応をどのように行うのかが課題である。 ・感染症に対する恐怖心から、思うような進路活動を行うことができない生徒・保護者への対応が課題である。	・いろいろな事情を抱えている生徒たちと思います。今後も保護者や各種機関との連携を図り、支援してもらいたい。 ・進路だより発行数では成果を出している。 ・発達障害的な特性がある生徒についての教育相談コア会議はどうしているか。SSW等との連携が時間的な制約があるなら、例えばリモート会議等の活用も視野に入れるとよいのではとの感想を持つ。	あった進路だよりを引き続き定期的に発行していきたい。	じた進路指導を充実させていきたい。
4	地域等との協働	・学校外の機関と協働・連携や外部人材の活用により、地域の教育力を生かした学校づくりを進める。	①生徒の実情に沿った就労支援のため外部機関との協働を進める。 ②本校ホームページを活用し、教育活動を発信することにより、地域とともに育つ向工を実現する。	①ハローワーク、サポートステーション及びNPO団体との協働を図る。 ①地元工業会主催のオープンファクトリー等への参加を働きかける。 ②本校ホームページや後援会役員会などを活用し、保護者等へ学校行事等への参加を呼びかける。	①ハローワーク、サポートステーション及びNPO団体と協働できたか。 ①オープンファクトリー等へ、生徒がどの程度参加できたか。 ②保護者との連携の機会を設けられたか。 ②ホームページの更新を適切に行い、情報発信できたか。	・コンソーシアムサポーターによるインターンシップの調整が中止される中、川崎市内の事業所を中心に就業体験の受け入れに協力を頂くことができた。 ・向友祭（文化祭）で保護者との企画を検討していたが、コロナ禍の影響で中止になった。 ・HPは、適切に更新されていた。	感染症対策を行いながらどのような形で地元企業、福祉施設等との連携を強化していくのかが課題である。 ・引き続き、保護者との協力について検討していく。	・軒並みコロナ禍の影響を受けてしまったのは残念であるが、できることを推進し行動されたことは素晴らしいと思う。今後とも保護者との連携をとりながらできることは確実に推進してほしい。 ・各種サポート機関や近隣の事業所のご協力を仰ぎつつ、地域との協働を引き続き図ってもらいたい。 ・コロナ禍で積極的な活動ができない課題の打開策が見つかるとうい。	①コロナ禍であり、オープンファクトリーへの参加はできなかったが、市内の事業所を中心に就業体験を実施することができた。 ②コロナ禍であり、学校行事への保護者等の参加は実施できなかったが、ホームページにより、学校紹介動画や本校における教育活動を随時更新し情報発信することができた。	①今後も地元事業所等と連携し、就業体験の受け入れに協力していただけるよう働きかけを実施していく。 ②本校における教育活動をホームページに掲載し、情報発信に努めていく。
5	学校管理 学校運営	・安全教育、環境教育を推進し、安心安全な教育環境を構築する。 ・全ての職員の資質向上を図るとともに、風通りの良い職場づくりをめざし、教職員の事故不祥事を未然に防止する。	①引き続き、6S教育(※)を実践するとともに防災体制の充実を図る。 ②職員の資質向上に向け、全職員が連携・協力して不祥事防止に取り組む。	①授業や特別活動を通じて、6S教育を実践する。 ①計画的に防災訓練を行い、生徒・職員の防災意識を高める。 ②定期的に不祥事防止等の研修を行う。	①安全・安心な学校づくりに資するため、6S教育を実践できたか。 ①計画的に防災教育を実践し、生徒・職員の意識を高揚させることができたか。 ②全職員で不祥事ゼロを達成できたか。	・授業などの機会を通して、6S教育を実践できた。 ・防災訓練(DIG訓練・下校訓練・避難訓練)を行った。 ・事故・不祥事はゼロであった。	・さらに、6S教育の実践に努める。 ・引き続き、防災教育を行うとともに、防災体制のさらなる充実を図る。 ・不祥事防止に関し、引き続き啓発に努める。	・6Sの推進と防災に関してより一層の取組をお願いする。 ・「6S診断チェックリスト」で評価できる仕組み作りも一案と思う。 ・突然襲ってきた大地震により公共交通機関がマヒした場合を想定した避難訓練・下校訓練についてさらに充実させてほしい。 ・各訓練を定期的に行う等、防災教育の強化をし、防災意識を高めてほしい。	①6S教育を実践できた。 ①コロナ禍であり、DIGについては対面作業を避け、ICTを用いて実施したが、効果的な実施方法を検討する必要がある。 ②定期的に不祥事防止研修を行い、不祥事ゼロを達成できた。	①引き続き、6S教育を実践し、生徒の安心・安全を確保していく。 ②防災訓練については、状況に応じて充実した内容で実施できるよう検討し、定期的に実施していく。 ②今後も全職員で不祥事ゼロを目指していく。

※6 S教育・・・安全・環境教育の推進に資するため、6 S「整理、整頓、清潔、清掃、躰、セイフティ（安全）」運動を展開する。